

医療・介護のみでなく『浜 CHAN』が多業種と取り組む支援 ～様々なつながりから、地域包括システムを構築～

神奈川県認知症介護指導者 田島美由紀

キーワード: 『だれ一人とり残されない街』を創りたいと願
い、認知症キャラバンメイトの活動の場の提供も支援している

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

認知症にならないこと、予防することも勿論大切だがそれよりもまた認知症になっても地域で暮らすことができる。そのような地域を創っていくことが大切と活動を続けている。

今自分たちが何をできるのかを考える。たとえ認知症になったとしてもその人が別の人になるわけではないこと。認知症のその人と、その家族も安心して暮らせるまちづくりを行っていくことを目的とする。

【活動内容】

それぞれが地域でできることを探し、お互いの知識や経験から相互扶助となる支援を考える。その協力や連携により、認知症の方を支えるネットワークをつくる。

活動のきっかけ、背景(法人会員としての立場で)

認知症の人を特別扱いせず接することは、偏見の目から人権を守ることにもつながります。認知症サポーターが認知症の人々との接し方を普及させることで、その家族までが生活しやすい状況を構築すること。

活動の経過と成果

【活動の経過】

「誰一人取り残さない世の中をつくる」「認知症サポーター養成講座の講師役となるキャラバン・メイトの活躍の場の提供」を掲げ、2019年2月に立ち上げた横浜市多職種交流会「浜CHAN」に今年度から参加している。

●特別講演会

令和2年8月15日(日) 13:30～zoomによる横浜市多職種交流会『浜CHAN』開催

第一部 認知症サポーター養成講座

第二部 若年性認知症当事者の丹野智文様の後援会

オンライン参加者 160名

【活動の成果】

日頃直接聞くことができない若年性認知症の方の体験は今も継続している生活の状況を聞かせていただくことができました。コロナ禍でも出来ることを役員をはじめ一同が考えてオンラインイベントを成功させられた。オンラインイベントにより全国どこからでも参加して貰える素晴らしさがなよりの成果となります。オンラインの接続テストも前夜祭を兼ねて行いつながることの喜びが達成できました。

今後の展望

会長の志摩様により「誰もが誰かのハブ(拠点)であればいい」誰も拒まないバリアフリーでゆるやかなコミュニティを目指す。認サポなどから生まれた”オレンジの繋がり”が広がり地域がよりよくなることにつながっていくということが今後の展望になります。